

ゴメリ医科大学へインターネットで遠隔講義



講義をする難波准教授



遠隔講義の様子



ゴメリ医科大学側の様子



医歯薬学総合研究科は、昭和61年4月26日に起きたチェルノブイリ原子力発電所事故から21周年を迎えるにあたって、ベラルーシ共和国のゴメリ医科大学の教員や学生に対しインターネット回線を利用した遠隔講義を4月26日（木）、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で行いました。

同研究科は平成3年からチェルノブイリ周辺住民の健康影響調査や医療支援、共同研究を行ってきましたが、同時に被曝者医療に携わる医師や医学生の教育支援にも力を入れてきました。特に平成14年度から5年間に渡って展開してきた21世紀COEプログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム」の柱の一つとして「放射線医療科学 e-Learning プログラム」を推進してきましたが、今回の遠隔講義はこのe-Learning プログラムを発展させる形で行ったものです。

平成17年4月に初めて行われて以来3回目となった今回の遠隔講義は、医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設分子医療部門分子診断学研究分野（原研細胞）の難波裕幸准教授が「甲状腺がんの診断：診断法と臨床トピックス」というテーマで講義を行いました。ゴメリ医科大学からは約60名が参加し、講義終了後には活発な質疑応答が行われました。

（医歯薬学総合研究科学術協力課）